

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間の尊厳と自立	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人間の尊厳を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応力の基礎を養う。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	<p>①「人間の尊厳」が守られている（守られていない）体験（事例）と、自分の意見を表現できる。</p> <p>②「人権」について法や条文を基に身近な事例を示し、自分の意見を表現できる。</p> <p>③「自立」と「自立生活」の内容と具体的な事例を示し、対する介護実践例を説明できる。</p> <p>④複数の自立支援の方法を、実際の行動例と根拠となる介護福祉士の価値を説明できる。</p>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	利用者主体／利用者主体の考え方がわかる				
3	人権思想／人権思想の歴史がわかる				
4	日本諸規定／人権や尊厳に関する日本の諸規定がわかる				
5	社会福祉出発／人は人をどう援助しようとしてきたかがわかる				
6	人権問題調べ／現在の人権問題を調べ考察できる				
7	人権問題発表／調べた人権問題を発表することができる				
8	ノーマライゼーション／人権・福祉理念の変遷がわかる				
9	人権尊重／利用者の人権について考えることができる				
10	時代調べ／高齢者の昔の出来事を調べ考察できる				
11	時代調べ発表／調べた高齢者の昔の出来事を発表することができる				
12	権利侵害／権利侵害についてわかる				
13	自立とは／自立とはどのような状態なのかがわかる				

14	自立支援／必要とされる自立支援がわかる
15	尊厳の保持と自立支援／尊厳を守る介護と自立支援の関係がわかる
<b>講義方法</b>	
各コマ、予習問題を解き、講義で解説・演習を実施。ミニテストで学びを確認する。	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
iPad	
<b>履修上の注意事項</b>	
質問や疑問はその都度受け付けます。	
<b>成績評価方法</b>	
ミニテスト10%、期末試験80%、授業態度10%	
<b>教科書・参考書</b>	
『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版』	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	①「よく観る」「よく聴く」「受けとめる」ことが体現でき、対人関係の創生を「面白がる（愉しむ）」ことができる。				
	②自己覚知を前提に、認め合い与えあう感情などの表出ができる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間らしさのはじまりがわかる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	発達心理学からみた人間関係がわかる				
4	社会心理学からみた人間関係がわかる				
5	人間関係とストレスがわかる				
6	第1節まとめ				
7	コミュニケーションの概念・基本構造がわかる				
8	コミュニケーションの概念・基本構造の手段がわかる				
9	第2節まとめ				
10	対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーションがわかる				
11	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則がわかる				
12	援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則がわかる				
13	組織の条件とコミュニケーションの特徴がわかる				
14	組織において求められるコミュニケーションがわかる				
15	第3・4節まとめ				

**講義方法**

講義、演習、ミニテスト

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験90%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ （チームマネジメント）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。				
	<b>到達目標</b>				
	①（要素を組み立てて）物語を想像したり、創造することができる。				
	②組み立てた物語の、登場人物としてその役割を演じることができる。（ほかの役割との相互関係も含めて）				
回数	<b>講義内容</b>				
1	ヒューマンサービスとしての介護サービスがわかる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護実践におけるチームマネジメントの取り組みがわかる				
4	ケアを展開するために必要なチームとその取り組みがわかる				
5	チームでケアを展開するためのマネジメントがわかる				
6	チームの力を最大化するためのマネジメントがわかる				
7	介護福祉職のキャリアと求められる実践力がわかる				
8	介護福祉職としてのキャリアデザインがわかる				
9	介護福祉職のキャリア支援・開発がわかる				
10	スーパービジョンができる				
11	自己研鑽に必要な姿勢がわかる				
12	介護実践におけるチームマネジメントの実際ができる				
13	介護実践におけるチームマネジメントの実際ができる				
14	介護サービスを支える組織の機能と役割がわかる				
15	まとめ				

**講義方法**

講義、演習、ミニテスト

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験90%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 1 人間の理解 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	人間関係とコミュニケーションⅡ （アクティビティ）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	石川 仁	実務経験	障害者施設で福祉レクリエーション ワーカー等として15年以上		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象疾患に応じたレクリエーションの進め方を学び、また援助のプロセスを理解する。</li> <li>・演習を通して、実践援助能力を身に付ける。</li> </ul>				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・レクリエーション活動が対象者に及ぼす影響や効果を理解出来る。</li> <li>・対象者の個別支援計画に基づいた、レクリエーションを選択出来る。</li> <li>・レクリエーション（集团的プログラムを中心に）の計画立案を行い、安全に実施出来る。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション／レクリエーションの基本理念(アイスブレイキング、ラポール形成)				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	レクリエーションの技法①～集団を対象とするコミュニケーション技術				
4	レクリエーションの技法②～プログラムの立案と展開				
5	レクリエーションの技法③～レクリエーションの実施と活用①				
6	レクリエーションの実際～認知症例への関わり				
7	レクリエーションの実際①～片麻痺事例への関わり				
8	レクリエーションの実際②～片麻痺事例への関わり				
9	レクリエーションの実際～感覚器障害事例への関わり				
10	アクティビティの施行と教示①Activityの開発・実施①				
11	アクティビティの施行と教示②Activityの開発・実施②				
12	アクティビティの施行と教示③Activityの開発・実施③				
13	アクティビティの施行と教示④Activityの開発・実施④				
14	アクティビティの施行と教示⑤プレゼンテーション①				
15	アクティビティの施行と教示⑧プレゼンテーション②				

**講義方法**

適宜、資料としてハンドアウトを配布する。

**講義で使用する機器・教材**

適宜指示

**履修上の注意事項**

備品を多く使用する授業のため、物品管理、整理整頓を常に心がけること。グループワークの多い講義となっているため、欠席することによるグループワークの進行やグループワークへ与える影響をよく考えること。

**成績評価方法**

発表（80％）、授業出欠（10％）、授業態度（10％）で評定を行う。

尚、人間関係とコミュニケーションIIの成績は石川（50％換算）・原田（50％換算）を合計して算出する。

**教科書・参考書**

特に指定しない。

**予習復習のアドバイス**

各科目で履修する学びを活用するとよい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	社会の理解Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。				
	<b>到達目標</b>				
	①利用者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアについて基礎的な知識を習得し課題について考察することができる。				
	②日本の社会保障の基本的なしくみについて理解することができる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	生活の基本機能／「社会生活」を自分の生活に置換えて考察できる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	家族の機能と役割／現代の家族構造と機能から変化がわかる				
4	社会・組織の機能と役割／社会、組織の役割・機能がわかる				
5	地域・地域社会の機能と役割／地域、地域社会の役割・機能がわかる				
6	地域社会／地域福祉についてわかる				
7	地域共生社会／地域共生社会の課題を考察できる				
8	地域包括ケアシステム／地域包括ケアシステムの課題を考察できる				
9	社会保障／社会保障の基本的な考え方がわかる				
10	日本の社会保障制度の発展／日本のこれまでの社会保障がわかる				
11	年金保険／年金保険の概要についてわかる				
12	医療保険／医療保険の概要についてわかる				
13	労災保険・雇用保険・社会手当／労災保険・雇用保険・社会手当の概要についてわかる				
14	今日の社会保障／社会保障関係費、社会保障給付費についてわかる				
15	振り返り／全体を振り返る				

**講義方法**

各コマ、予習問題を解き、講義で解説・演習を実施。ミニテストで学びを確認する。

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

ミニテスト40%、期末試験50%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第3版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	社会の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える。				
	<b>到達目標</b>				
高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得することができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	高齢者福祉動向／戦後から現在までの高齢者保健福祉がわかる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護保険制度①／介護保険制度の拝啓・目的、しくみがわかる				
4	介護保険制度②／介護保険制度のしくみがわかる				
5	介護保険制度③／介護保険制度のしくみがわかる				
6	障害者福祉動向／障害者をめぐる現状、障害者の定義がわかる				
7	障害者福祉法体系／障害者福祉の歴史、障害者の定義がわかる				
8	障害者総合支援制度①／障害者総合支援制度の目的、しくみがわかる				
9	障害者総合支援制度②／障害者総合支援制度のしくみがわかる				
10	高齢者虐待／高齢者虐待防止法など権利を守る制度がわかる				
11	成年後見制度／成年後見制度、日常生活自立支援事業がわかる				
12	保険医療制度／保健医療に関する制度がわかる				
13	生活困窮支援／生活保護法などがわかる				
14	地域生活支援／様々な人の就労支援、雇用促進などがわかる				
15	振り返り／全体を振り返る				

**講義方法**

各コマ、予習問題を解き、講義で解説・演習を実施。ミニテストで学びを確認する。

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

ミニテスト40%、期末試験50%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 2 社会の理解 第3版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	国際理解と外国人交流	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子、齋藤 裕子 小巖 貴美子	実務経験	原田（介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務） 齋藤（医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり） 小巖（介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務）		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	様々な文化や価値観を背景とする人々と相互に尊重し合いながら共生する社会への理解及び国際的な視野を養う。 多文化共生の理解と地域の繋がりを理解し自己覚知でき対人援助コミュニケーションにおける心を育む。				
	<b>到達目標</b>				
	外国人留学生との交流をもつことで外国人と諸外国の文化や宗教に触れ外国人の特性を理解する。 多様化する介護福祉施設での外国人と接する機会をもつことで、知識としてもっている接遇を実践しコミュニケーションについての意識を高める。 変容する日本社会と国際理解及び多文化共生について理解する。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	学外研修（オリエンテーション）				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護の未来を考える（元気グループ） 2				
4	介護の未来を考える（元気グループ） まとめ				
5	多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態				
6	多文化共生の理解と外国人介護福祉士雇用の実態 まとめ				
7	外国人留学生交流会				
8	外国人留学生交流会				
9	外国人留学生交流会 まとめ				
10	学外研修（松陽苑） 1				

11	学外研修（松陽苑） 2
12	学外研修（松陽苑） 3
13	学外研修（松陽苑） 4
14	学外研修（松陽苑） まとめ
15	学外研修（松陽苑） まとめ
<b>講義方法</b> 特別講義・演習・グループワーク 学外研修	
<b>講義で使用する機器・教材</b> i P a d 必須	
<b>履修上の注意事項</b> 遅刻・欠席がないことが望ましい。	
<b>成績評価方法</b> レポート・課題(80%)、出席状況・授業態度(20%) 授業態度及びレポートや課題で評価するため期日内提出を心掛けること。	
<b>教科書・参考書</b> 適宜資料配布	
<b>予習復習のアドバイス</b> 事前配布資料を基に学習を進めることが望ましい。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活技術	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	原田 由美子	実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	生活に必要な基礎的な技術を身につけ、生活するための能力を養うことができる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 調理に基本を理解し、簡単な調理をすることができる。</li> <li>・ 洗濯の仕方や衣類管理について理解することができる。</li> <li>・ 生活にかかわる社会的規則についてを理解することができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	調理支援が必要な対象者の理解【前期】				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	食材の下処理、加工の理解【前期】				
4	調理実習 レシピ確認・準備【前期】				
5	献立の作成方法・食品購入・物品準備【前期】				
6	調理実習 レシピ確認・準備【前期】				
7	栄養素【後期】				
8	食材の管理と食中毒 1【後期】				
9	食材の管理と食中毒 2【後期】				
10	掃除・衣服の管理・洗濯【後期】				
11	生活に関する発表資料作り 1【後期】				
12	生活に関する発表資料作り 2【後期】				
13	生活に関する発表【後期】				
14	まとめ【後期】				
15	振り返りの試験【後期】				

**講義方法**

講義・演習・グループワーク

**講義で使用する機器・教材**

i P a d 必須、生活用具全般（調理器具、洗濯用品等）

**履修上の注意事項**

- ・ 配布物の管理 ： ファイリングするなどし、授業時には持参する。
- ・ 調理時には衛生面に留意し、身だしなみ等も整えて出席する。
- ・ 講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

提出物 30%      筆記試験 70%

※提出物の遅れや未提出、内容によっては減点もあるため計画的に進めること。

**教科書・参考書**

適宜資料配布

**予習復習のアドバイス**

技術を習得するために、家庭においても復習すること。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	情報処理	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	パソコンの基本的な操作を通じ情報リテラシーの能力を高める。				
	<b>到達目標</b>				
	①MicrosoftOffice（Word、Excel）の基本操作ができる。 ②介護現場で行われているMicrosoftOfficeを使用したパソコン業務を疑似体験できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	Windows10の基礎がわかる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	Word（基礎）がわかる				
4	Word（基礎）がわかる				
5	Wordで議事録を作成することができる				
6	Excel（基礎）がわかる				
7	Excel（基礎）がわかる				
8	Excelで勤務表を作成することができる				
9	Excelで勤務表を作成することができる				
10	Excelで勤務表を作成することができる				
11	介護ICTの体験ができる				
12	介護ICTの体験ができる				
13	PCを使用した創作活動ができる				
14	PCを使用した創作活動ができる				
15	PCを使用した創作活動ができる				

**講義方法**

基礎は教科書中心に、応用は介護現場で行われている業務を疑似体験しながらマシン実習を行う。

**講義で使用する機器・教材****履修上の注意事項**

- ・授業には休まず毎日出席すること、欠席は提出課題作成などの遅れとなる。
- ・理解できない場合は、そのままにせず積極的に質問すること。理解して次に繋げる。
- ・テキストを参照しながら授業を進めるので、テキストは忘れないこと。

**成績評価方法**

ミニテスト20%、提出物70%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『30時間でマスターOffice2021』（実教出版）

**予習復習のアドバイス**

特に予習復習の必要はない。課題作成の遅れは授業の空きコマや放課後に各自マシンを使用し実習可能。ただし、マシンは他科と共有のため利用状況を教員に確認してください。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b>				
	①「尊厳の保持」「自立支援」の介護の基本理念の実現に対し具体的な生活課題とその対策を考察できる。 ②社会福祉士及び介護福祉士法を理解し、実践の場で介護福祉士が果たすべき役割を述べることができる。 ③介護福祉の専門性と倫理を理解し、求められる専門職としての態度について学習場面での実践を考察できる。 ④ICFの視点でのアセスメントを理解し、環境整備や介護予防を踏まえた利用者の自立と生活支援のあり方について考察できる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	介護福祉を取り巻く状況／介護福祉の状況がわかる				
3	介護福祉を取り巻く状況／介護福祉の状況がわかる				
4	介護福祉の歴史1／老人福祉法がわかる				
5	介護福祉の歴史2／老人福祉法が成立した社会的背景がわかる				
6	介護福祉の歴史3／1970年代、1980年代の介護福祉の歴史がわかる				
7	介護福祉の歴史4／1990年代、2000年代以降の介護福祉の歴史がわかる				
8	介護福祉の基本理念／介護福祉の基本となる理念がわかる				
9	介護福祉の基本理念／介護福祉の基本となる理念がわかる				
10	第1章振り返り				
11	介護福祉士法1／社会福祉士及び介護福祉士法がわかる				
12	介護福祉士法2／社会福祉士及び介護福祉士法がわかる				

13	介護福祉士法の活動の場と役割1 / 地域包括ケアシステム、介護予防での役割とは何かわかる
14	介護福祉士法の活動の場と役割2 / 医療的ケア、看取りケアでの役割とは何かわかる
15	介護福祉士法の活動の場と役割3 / 災害時での役割とは何かわかる
16	介護福祉士に求められる役割 / 求められる介護福祉士像がわかる
17	介護福祉を支える団体 / 職能団体、介養協のはたらきがわかる
18	第2章振り返り
19	介護福祉士の倫理1 / 普遍的倫理判断がわかる
20	介護福祉士の倫理2 / 個人情報保護法、看取りについてわかる
21	介護福祉士の倫理3 / 高齢者虐待、身体拘束についてわかる
22	介護福祉士の倫理4 / 認知症ケア、自立支援についてわかる
23	介護福祉士の倫理5 / 日本介護福祉士会倫理綱領がわかる
24	介護福祉士の倫理6 / 日本介護福祉士会倫理綱領がわかる
25	第3章振り返り
26	自立支援 / 自立支援の具体的な考え方がわかる
27	ICF / ICFにおける相互作用がわかる
28	ICF演習 / ICFの展開ができる
29	自立支援予防 / 自立支援と介護予防の基本的な考え方と介護福祉士の役割がわかる
30	第4章振り返り

**講義方法**

講義、演習、章ごとにミニテスト

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験60%、小テスト30%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 3 介護の基本 I 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本II	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務☑		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b>				
	<p>①介護を必要とする人の個別性と多様性について理解し、居宅・施設における生活支援について考察できる。</p> <p>②個々の利用者の生活の多様性とや社会との関わりから「その人らしさ」を支援する意義について述べることができる。</p> <p>③各種サービスの内容を理解し、他職種の専門性や役割と機能から介護福祉士の連携・協働のあり方について考察できる。</p> <p>④介護を必要とする人が地域での生活を継続するためにフォーマル・インフォーマルな資源を利用した支援のあり方について介護福祉士の役割として述べることができる。</p>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	演習／ジェノグラムとエコマップが書ける				
3	高齢者暮らし1／事例を通して高齢者理解の視点が理解できる				
4	高齢者暮らし2／事例をもとにICFに展開できる				
5	高齢者暮らし3／事例をもとに高齢者の生活を考察できる				
6	障害者暮らし1／事例を通して障害者理解の視点が理解できる				
7	障害者暮らし2／事例をもとにICFに展開できる				
8	障害者暮らし3／事例をもとに障害者の生活を考察できる				
9	その人らしさと生活ニーズ／「その人らしさ」「生活ニーズ」とは何かがわかる				
10	生活のしづらさ／生活のしづらさへの支援についてわかる				
11	第1章まとめ				

12	高齢者フォーマルサービス1 / 高齢者の生活を支えるフォーマルサービスがわかる
13	高齢者フォーマルサービス2 / 高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを調べる
14	高齢者フォーマルサービス3 / 調べた高齢者の生活を支えるフォーマルサービスを発表する
15	障害者フォーマルサービス1 / 障害者の生活を支えるフォーマルサービスがわかる
16	障害者フォーマルサービス2 / 障害者の生活を支えるフォーマルサービスを調べる
17	障害者フォーマルサービス3 / 調べた障害者の生活を支えるフォーマルサービスを発表できる
18	校外学習 / 就労継続支援事業所見学
19	校外学習 / 就労継続支援事業所見学
20	インフォーマルサービス / インフォーマルサービスがわかる
21	地域の社会資源1 / 地域福祉にかかわる組織・団体について調べる
22	地域の社会資源2 / 地域福祉にかかわる組織・団体について調べる
23	地域の社会資源3 / 調べた地域福祉にかかわる組織・団体を発表できる
24	地域連携1 / 事例DVDを視聴する
25	地域連携2 / 視聴した事例DVDをもとに地域連携についてまとめる
26	地域調査 / 地域（花京院）にある社会資源を調べる
27	地域調査 / 地域（花京院）にある社会資源を調べる（フィールドワーク）
28	地域調査 / 地域（花京院）にある社会資源をまとめる
29	地域調査 / まとめた地域（花京院）にある社会資源を発表する
30	第2章まとめ

**講義方法**

講義、調べ学習、グループワーク、校外学習、章ごとに小テスト

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験70%、小テスト10%、レポート10%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護の基本Ⅲ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務☑		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う。				
	<b>到達目標</b>				
①介護における安全の確保とリスクマネジメントの必要性を理解し、介護現場の場面を多角的に分析し、安全対策の必要性を述べることができる。 ②介護従事者が心身ともに健康に就労継続するために、健康管理方法や労働環境の管理の重要性を述べることができる。 ③AIやICT、IoTなどの発展、ロボットの開発・導入が進行する中で、介護を必要とする人の生活の変化に伴う介護福祉士の働き方について自分の考えを述べることができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	介護における安全確保2／セーフティマネジメントで何が大事なかわかる				
3	介護における安全確保3／お花見外出でのリスクがわかる				
4	リスクマネジメント1／リスクマネジメントの必要性を説明できる				
5	リスクマネジメント2／身体拘束がわかる				
6	求められる安全・安心1／求められる安全・安心がわかる				
7	求められる安全・安心2／危険予知トレーニングができる				
8	求められる安全・安心3／危険予知トレーニングができる				
9	事故防止のための対策1／事故発生後の対応を説明できる				
10	事故防止のための対策2／事故発生後の対応を説明できる				
11	事故防止のための対策3／生活の中のリスクと対策がわかる				
12	事故防止のための対策4／介護訴訟の実際がわかる				

13	感染症対策1 / 介護福祉職に必要な感染に関する知識がわかる
14	感染症対策2 / 介護福祉職に必要な感染に関する知識がわかる
15	感染症対策3 / 個別の感染症対策がわかる
16	感染症対策4 / 新型コロナウイルス対策についてわかる
17	感染症対策5 / 感染者の介護をする際に必要なことがわかる
18	多職種連携1 / 多職種連携・協働の必要性がわかる
19	多職種連携2 / 多職種連携に求められる基本的な能力がわかる
20	多職種連携3 / 多職種の役割がわかる
21	多職種連携4 / 多職種連携の実際がわかる
22	福祉避難所ゲーム (HUG) で福祉難所における対応を疑似体験できる
23	福祉避難所ゲーム (HUG) で福祉難所における対応を疑似体験できる
24	健康管理1 / 労働基準法・労働安全衛生法がわかる
25	健康管理2 / 労災・育児介護に関する法がわかる
26	健康管理3 / 介護労働の特性と健康問題がわかる
27	健康管理4 / 介護従事者のこころの健康管理がわかる
28	健康管理5 / 介護従事者の身体健康管理がわかる
29	健康管理6 / 介護従事者の労働環境の整備がわかる
30	振り返り

**講義方法**

講義、演習、章ごとにミニテスト

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験50%、小テスト40%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 4 介護の基本Ⅱ 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護実践に必要なコミュニケーション能力を養うため、対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護におけるコミュニケーション技術を理解し実践できる。</li> <li>・言語・非言語・準言語コミュニケーションを意図的に使いこなせる。</li> <li>・介護福祉職は家族と協働していく支援のパートナーであることを理解できる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション／コミュニケーションとは何かを考える				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	適切な自己開示および相手の自己開示の過程への理解（自己開示の段階、ジョハリの窓、「私はこういう人」・「私から見た●●さん」）				
4	伝えたいことを明確に表現する（言語・非言語・準言語、相手の背景・環境）				
5	相手のところを聞く姿勢と技能を高める（傾聴、SOLER、聴くこと・聴かないこと、対人距離）				
6	傾聴（直面化・繰り返し・反射）				
7	傾聴（明確化・要約・焦点化）				
8	自分の感情に気付き、それを認める（バイステックの7原則）				
9	基本的な共感の応答を日常の介護に取り入れる（感情を察する、同情と共感的理解の違い）				
10	様々な質問の技法と役割に精通する（開かれた質問・閉じられた質問・意識的に避けたい質問方法）				
11	ストレングス・動機づけ・意欲を引き出す声掛け				
12	家族とのコミュニケーション				
13	家族とのコミュニケーション				
14	コミュニケーション演習（これまでの技法を活用した演習）				
15	コミュニケーション演習（これまでの技法を活用した演習）				

**講義方法**

座学・演習（グループワーク）

**講義で使用する機器・教材**

ipad必須

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。

授業態度は成績に影響するため、真剣に臨むこと。

講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

期末試験の点数から授業態度の点数を加点あるいは減点し評価する。（60点未満は再試験の対象）

※授業態度に関する加点・原点については別紙の評価表を参照すること。

小巖80% + 菅原20% = 100%で総合評価を行う。

**教科書・参考書**

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

**予習復習のアドバイス**

・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅰ（手話）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	菅原 伸哉	実務経験	手話講師 15年以上		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	聴覚障害者とのコミュニケーションを円滑にし、介護従事者として対応できる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聴覚障害者について理解する。</li> <li>・基礎的な手話を習得する。</li> <li>・聴覚障害者とのコミュニケーション技法について理解、習得する。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	名前を紹介しましょう				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	家族について話しましょう				
4	趣味や仕事について話しましょう				
5	あなたの家を紹介しましょう				
6	「どこ？」の会話をしましょう				
7	自己紹介まとめ				
8	時の表し方を覚えましょう				
9	〇〇会のお知らせについて話しましょう				
10	接客手話				
11	簡単な会話				
12	講義「コミュニケーション方法」				
13	講義「聴覚障害者の生活」				
14	復習まとめ				
15	まとめ				

**講義方法**

座学および演習にて行う。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター、ホワイトボード

**履修上の注意事項**

遅刻・欠席がないことが望ましい。

**成績評価方法**

期末試験70% 受講態度30%

小巖80% + 菅原20% = 100%で総合評価を行う。

**教科書・参考書**

新版 今日からはじめるやさしい手話：身につく!話せる!話題が広がる!!

**予習復習のアドバイス**

・コミュニケーション技術Ⅰ、生活支援技術と関連付けた学習を行う。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026(令和8)年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	コミュニケーション技術Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	コミュニケーションの基礎的な知識を復習し、各障害特性をコミュニケーション技術に特化した視点で理解できる。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種連携とチームコミュニケーションを理解し、実践で活用することができる。</li> <li>・各障害特性について再学習し、コミュニケーション障害について説明することができる。</li> <li>・各障害特性に合わせたコミュニケーション技術を習得し、実践で活用することができる。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション / コミュニケーション障害の理解				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	視覚障害の理解とコミュニケーション支援方法				
4	聴覚障害の理解とコミュニケーション支援方法				
5	構音障害の理解とコミュニケーション支援				
6	失語症の理解とコミュニケーション支援				
7	認知症の理解とコミュニケーション支援				
8	高次脳機能障害の理解とコミュニケーション支援				
9	チームコミュニケーションの概要				
10	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的				
11	「報告」「連絡」「相談」の意義と目的				
12	記録の意義／実際				
13	会議・議事進行の技術				
14	これまでの振り返り				
15	これまでの振り返り②				

**講義方法**

講義・グループワークをおり交ぜた学習  
演習を行い、実践で活用できる技術を学ぶ。

**講義で使用する機器・教材**

i P a d 必須

**履修上の注意事項**

遅刻・欠席がないことが望ましい。  
講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

提出物：20%      筆記試験：80%

**教科書・参考書**

最新 介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術

**予習復習のアドバイス**

- ・コミュニケーション技術Ⅰで学んだことを復習したうえで講義に臨むこと。
- ・他科目と連動する内容があるため、当科目だけで終結せずに関連付けする必要がある。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	44
		単位時間数	88	単位数	3
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<p>生活とは何かを理解した上で、利用者の個性に対応できる技術・能力を身につける。 生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するところが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。 自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を理解する。</p>				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援を理解し、そのあり方を考えることができる。</li> <li>・居住環境、衛生管理について理解し、その方法を習得する。</li> <li>・身じたくの介護についてその意義・目的を理解し、その方法と技術を習得することができる。</li> <li>・入浴の意義・目的を理解した上で、その介護方法について習得するとともに、それに伴う移動の技術を習得する。</li> <li>・口腔衛生について理解し、介助方法とその技術を習得する。</li> <li>・食事についてどのように支援すべきかその技術を習得する。</li> <li>・排泄についてどのように支援すべきかその技術を習得する。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション～生活支援技術全体像の理解～				
2	生活支援とは				
3	居室環境の理解と寝具の衛生管理時の留意点				
4	寝具の衛生管理の技術				
5	寝具の衛生管理の技術				
6	寝具の衛生管理の技術				
7	ベッドメイキング 実技試験				
8	ベッドメイキング 実技試験				
9	身じたくの意義と目的				
10	洗顔・整髪の知識と介助技術				

11	髭剃り・爪・耳の手入れに関する知識と介護技術
12	口腔衛生に関する知識と介助技術
13	口腔衛生方法 1身だしなみ
14	口腔衛生方法 2身だしなみ
15	身だしなみ 支援練習
16	身だしなみ 支援練習
17	身だしなみ 実技試験
18	身だしなみ 実技試験
19	食事の意義と目的
20	食事の介護における多職種連携
21	中間テスト(筆記・返却・復習)
22	中間テスト(筆記・返却・復習)
23	食事の介助方法
24	食事の介助方法
25	入浴・清潔の介護の意義と目的
26	足浴・手浴・洗髪に関する知識と技術
27	訪問入浴介助の実際（協力：アースサポート）1
28	訪問入浴介助の実際（協力：アースサポート）2
29	入浴介助（女性：入浴、男性：清拭）
30	入浴介助（女性：清拭、男性：入浴）
31	自立した排泄の理解
32	排尿・排泄障害の理解
33	排泄の介助 おむつ使用者への介助（協力：ユニ・チャーム）1
34	排泄の介助 おむつ使用者への介助（協力：ユニ・チャーム）1
35	排泄の介助 ポータブルトイレ・トイレでの介助

36	排泄の介助 尿器・差し込み便器
37	実技総合 事例展開
38	実技総合 事例展開
39	実技総合 事例展開
40	実技総合 事例展開
41	実技総合 事例展開
42	実技試験 (総合)
43	実技試験 (総合)
44	実技試験 (総合)
<b>講義方法</b> テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 各実習室を使用して実技演習を行う。	
<b>講義で使用する機器・教材</b> i P a d、撮影機材 (スマホ可)、三脚、イヤホン	
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。</li> <li>・欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。</li> <li>・教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、演習時には基本的に実習着 (ユニフォーム) を着用することとなる。身だしなみ (頭髪・爪・靴下など) を整え出席すること。</li> <li>・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。</li> <li>・提出物の提出期限に注意すること。</li> <li>・講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b> 実技：45% 筆記：45%(内訳：中間50%+期末50%) 授業態度(出席率、整容、取り組む姿勢等を評価) 10% ※小巖 80%+高橋 20%=100%で総合評価を行う。	
<b>教科書・参考書</b> 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ (中央法規出版)	
<b>予習復習のアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前にテキストを読んでおく。</li> <li>・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。</li> <li>・実技演習の時間は限られているため、各自復習すること。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	32	単位数	1
講師名	高橋 敦志	実務経験	サ高住施設長 兼 ヘルパーステーション管理者		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	生活とは何かを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。生活全体を理解した上で、利用者の潜在能力を引き出し、どのように支援するところが適切かを考え、それを提供していく能力を身につける。				
	自立支援の観点から、その知識・技術が展開できる能力を養うとともに、利用者の生活の質の向上を考えた援助技術を学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 残存機能の活用について理解し、状態に合わせた支援が展開できる。</li> <li>・ 起居・移動についてどのように支援すべきか学び、その技術を習得する。</li> <li>・ 利用者のQOL向上と起居・移動の関係について理解し、説明できる。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	体位変換の介助				
3	起居動作				
4	移動介助 歩行～杖歩行				
5	移動介助 車椅子(室内)				
6	移動介助 車椅子(屋外)				
7	移乗介助 ベッド～車椅子（一部介助）				
8	移乗介助 車椅子～ベッド（一部介助）				
9	移乗介助 ベッド～車椅子（全介助）				
10	移乗介助 車椅子～ベッド（全介助）				
11	移乗介助 福祉用具の活用				
12	移乗介助 福祉用具の活用②				
13	移乗介助 布団～車椅子				

14	移乗介助 車椅子～布団
15	実技試験
16	実技試験
<b>講義方法</b> テキスト及び必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。 グループワークの実施	
<b>講義で使用する機器・教材</b> iPad 必須	
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ テキスト、ノート類及び資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。</li> <li>・ 欠席すると遅れが生じる為、欠席には注意する。</li> <li>・ 教室及び各実習室を使用し、実際に演習を行う授業であるため、演習時には基本的に実習着（ユニフォーム）を着用することとなる。身だしなみを整え出席すること。</li> <li>・ 各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。</li> <li>・ 提出物の提出期限に注意すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b> 実技試験 100%で評価 ※生活支援技術Ⅰは 小巖80%、高橋20% としてその合計を最終評価とする。	
<b>教科書・参考書</b> 『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版』 『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版』	
<b>予習復習のアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にテキストを読んでおく。</li> <li>・ 配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。</li> <li>・ 実技演習の時間は限られているため、各自復習すること。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ（終末期）	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	16	単位数	4
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的で根拠ある介護を展開できる。また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
	①終末期介護の倫理と具体的介護方法、家族援助が理解できる。 ②死をむかえる人への介護に対する不安や恐怖が軽減される。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	終末期の介護の意義と目的				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	終末期における看取りと死後支援の実際／(株)清月記の講義から学ぶことができる				
4	終末期における看取りと死後支援の実際／(株)清月記の講義から学ぶことができる				
5	グリーフケア／DVD視聴				
6	グリーフケア／DVD視聴からの学び、感じたことのレポートを作成する				
7	ターミナルケア・グリーフケア／人形を使用し理論と技術がわかる				
8	まとめ／試験				

**講義方法**

講義開始前と全講義終了後に生死観に関するアンケートを実施  
講義と演習がメイン

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

質問や疑問はその都度受け付けます。

※生死についての授業となるため、都度休憩を取りながら無理なく授業を進めます。

※講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

終末期25点（内訳：レポート5点、試験20点）

※生活支援技術Ⅱの総合評価は リハ論50点、睡眠25点、終末期25点の合計で算出する。

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 7 生活支援技術Ⅱ 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026(令和8)年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ(睡眠)	講義曜日	時間割参照	講義回数	7
		単位時間数	14	単位数	1
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	睡眠・休息の意義、目的を理解し、具体的で根拠ある介護を展開できる。 また、終末期における要介護者・家族の心理的援助を理解する。				
	<b>到達目標</b>				
		・睡眠・休息のアセスメントに係る知識の習得および具体的介護方法の習得			
回数	<b>講義内容</b>				
1	睡眠の意義と目的				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	快適な睡眠を支えるケアと環境づくり／パラマウントベッド見学訪問				
4	快適な睡眠を支えるケアと環境づくり／パラマウントベッド見学訪問				
5	安眠のための介助方法 実技練習				
6	安眠のための介助方法 実技練習／試験				
7	安眠のための介助方法 実技試験				

**講義方法**

- ・板書、ノート、資料を使用した講義および演習となります。

**講義で使用する機器・教材**

i P a d 必須

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むようにしてください。
- ・介護実習での実践が可能となるよう、授業時間以外も各自で技術習得のための練習を行うことが望ましい。
- ・段階的な展開となる授業のため、欠席は極力しないこと。
- ・講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

実技20% 筆記80%で評価

**教科書・参考書**

生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）

**予習復習のアドバイス**

- ・生活支援技術他項目との関連が多いため、各自で復習を徹底することが望ましい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅱ（リハビリテーション論）	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	1
講師名	佐藤 房郎	実務経験	リハビリテーション専門病院、大学病院等で40年間理学療法士としての実務経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者が要介護状態になってもできるかぎり悪化を防ぐ。</li> <li>・また、自立して、充実した生活を送れるようにするために、「できない・しないを支える介護技術」から「できるようになる・するようになる介護技術」へ考え方を変える。</li> </ul>				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尊厳の保持、自立・自律の尊重について理解する。</li> <li>・ICFについて理解する。</li> <li>・ADLの基本的介助方法と各疾患（障害）における介助方法を理解する。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	リハビリテーション概論：地域包括ケアシステムとリハビリテーションの概念を理解する				
2	社会保障と保険制度：介護領域に不可欠な社会保障制度と介護保険制度について理解する				
3	リハビリテーションの流れと役割：医療から福祉領域へのシームレスな連携について理解する				
4	リハビリテーションチーム：スタッフ間連携と生活リハビリテーションを理解する				
5	障害の捉え方：ICFの概念を理解する				
6	ICFの実際：ICFの概念に沿った支援について事例検討する				
7	環境因子とは：ICFにおける環境因子について事例検討する				
8	環境調整の支援：介護福祉士にできる居室の環境改善について理解する				
9	チームアプローチの実際：チームアプローチの実際について事例検討する				
10	リハビリテーション実施計画書：本様式の目的と記載内容を理解する				
11	起居動作の支援：疾患別の自立に向けた起居動作の介助方法を演習する				
12	移乗動作の支援：疾患別の自立に向けた移乗動作の介助方法を演習する				
13	移動の支援：車椅子の適合判定と歩行介助を体験する				

14	食事介助の支援：疾患別の自立に向けた食事動作の介助方法を理解する
15	排泄と入浴の支援：疾患別の自立に向けた排泄・入浴動作の介助方法を理解する
<b>講義方法</b>	
座学、P B L 学習、演習、実習 グループワークと発表	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
プロジェクター、i P a d	
<b>履修上の注意事項</b>	
とにかく、板書および話した内容をもれなく記録することを習慣づけること。 わからないことは、そのままにせず、すぐに聞く習慣を身につける。 ※ファイルを用意し、配布資料やノートを適切に整理して下さい。	
<b>成績評価方法</b>	
客観テスト、課題提出 ※生活支援技術Ⅱの総合評価は リハ論50点、睡眠25点、終末期25点の合計で算出する。	
<b>教科書・参考書</b> 講義資料配布予定	
野尻晋一：リハビリテーションからみた介護技術 中央法規 大川弥生：介護保険サービスとリハビリテーション.中央法規 諏訪さゆり：I C F の視点を活かしたケアプラン実践ガイド.日総研出版	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
とにかく、授業の全ての内容を残すようにしてください。 授業のあとは、必ず自分なりにまとめ直すことが大切です。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026(令和8)年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ(障害形態別)①	講義曜日	時間割参照	講義回数	16
		単位時間数	32	単位数	1
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域における様々な場において対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得できる。</li> <li>・本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養うことができる。</li> </ul>				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の生活と地域との関わりや地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し地域における生活支援を実践的に学ぶ。</li> <li>・様々な障害や疾病をもつ方々と、その生活を支える多職種について理解を深めるとともに、自身の介護観を養う。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	形態別に応じた介護(病院内 学外見学研修)を理解することができる				
2	形態別に応じた介護(病院内 学外見学研修)を理解することができる				
3	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
4	形態別に応じた介護(病院内 学外見学研修)を理解することができる				
5	レポート作成/施設概要まとめ				
6	形態別に応じた介護(障害者支援施設 学外見学研修)を理解することができる				
7	形態別に応じた介護(障害者支援施設 学外見学研修)を理解することができる				
8	形態別に応じた介護(障害者支援施設 学外見学研修)を理解することができる				
9	形態別に応じた介護(障害者支援施設 学外見学研修)を理解することができる				
10	レポート作成/施設概要まとめ				
11	形態別に応じた介護:(多機能型児童発達支援・放課後等デイサービス 学外見学研修)を理解することができる				
12	形態別に応じた介護:(多機能型児童発達支援・放課後等デイサービス 学外見学研修)を理解することができる				
13	形態別に応じた介護:(多機能型児童発達支援・放課後等デイサービス 学外見学研修)を理解することができる				
14	形態別に応じた介護:(多機能型児童発達支援・放課後等デイサービス 学外見学研修)を理解することができる				
15	レポート作成/施設概要まとめ				
16	まとめ				

**講義方法**

レポート提出や学ぼうとする姿勢・意欲を評価する。(別紙参照)  
障害に関するDVDを鑑賞し、知識・理解を深めてから研修に臨む。

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

- ・質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。
- ・居眠りや欠席・遅刻は評価に影響することを自覚し、研修に臨むこと。
- ・期末試験(筆記テスト)はない。レポートや研修への参加態度が評価となる。

**成績評価方法**

研修参加態度+レポート=100%

※後に40%換算し、生活支援技術Ⅲの総合評価とする。

生活支援技術Ⅲの総合評価は 調理10%+形態別①40%+形態別②20%+生活20%+被服10%=100%

**教科書・参考書**

介護福祉士養成講座8生活支援技術Ⅲ(中央法規出版)、14障害の理解第3版(中央法規出版)

**予習復習のアドバイス**

- ・特に、「こころとからだのしくみ」「障害の理解」の理解・復習が必要になる。
- ・各施設について事前に情報を調べておく。
- ・レポートは、介護福祉科全教員や各施設の担当者にも届けるため、相手に対して失礼のない丁寧な作成を求める。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ（障害形態別）②	講義曜日	時間割参照	講義回数	22
		単位時間数	44	単位数	4
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	①障害や疾病のある人について医学的、心理的側面から理解する。				
	②生活上の困りごとを理解する。				
	③障害や疾病がある人への生活支援において介護福祉士が果たすべき役割を理解する。				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	・ 各種障害の症状、特性を知る。				
	・ 障害に対するソーシャルサポートを理解し、活用できる。				
	・ 福祉住環境整備を含めた総合的な支援体制を理解する。				
・ 各種障害に応じた身体的、心理的支援ができる。					
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	DVD視聴／レポートを作成する				
3	外出支援／外出支援計画を立案する				
4	外出支援／外出支援計画を立案する				
5	外出支援／外出支援に向けて事前準備を行う				
6	外出支援／外出支援に向けて事前準備を行う				
7	外出支援／外出支援を実施する				
8	外出支援／外出支援を実施する				
9	外出支援／外出支援を実施する				
10	外出支援／外出支援を実施する				
11	外出支援／外出支援を振り返る（コラージュ作成）				
12	外出支援／外出支援を振り返る（コラージュ作成）				
13	形態別介護事例／事例をもとに生活支援技術計画を立案し練習する				
14	形態別介護事例／事例をもとに生活支援技術計画を立案し練習する				

15	形態別介護事例／作成した生活支援技術計画にそって支援を実施
16	形態別介護事例／作成した生活支援技術計画にそって支援を実施
17	外部講師／外部講師の講義を受ける
18	外部講師／外部講師の講義を受ける
19	仙台市ポッチャ大会出場
20	仙台市ポッチャ大会出場
21	仙台市ポッチャ大会出場
22	仙台市ポッチャ大会出場
<b>講義方法</b> 演習や実践をメインに、個人またはグループ活動を行う。	
<b>講義で使用する機器・教材</b> i P a d 必須	
<b>履修上の注意事項</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 質問や疑問はその都度確認し、理解に努めること。※ポッチャ大会による予定の変更あり。</li> <li>・ 居眠りや欠席・遅刻は授業に影響することを自覚し、授業に集中出来るよう努めること。私語を控えること。</li> <li>・ 講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b> 成果物40%+実技試験50%+授業態度10%=100% ※後に20%換算し、生活支援技術Ⅲの総合評価とする。 生活支援技術Ⅲの総合評価は 調理10%+形態別①40%+形態別②20%+生活20%+被服10% =100%	
<b>教科書・参考書</b>	
<b>予習復習のアドバイス</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前にテキストを読んでおく。</li> <li>・ 配布資料は、授業前に復習しておく。</li> <li>・ 専門用語は早期に調べ、授業時に使用する用語の理解に努める。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ（調理）	講義曜日	時間割参照	講義回数	9
		単位時間数	18	単位数	1
講師名	原田 由美子、丹伊田 富	実務経験	原田：介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務 丹伊田：管理栄養士として介護老人保健施設に18年以上勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	家庭生活の中での家事、調理の必要性を理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活全般における家事の基礎知識についての理解ができる。</li> <li>・基本的な食材・調理の知識及び技術を身につけることができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	調理支援演習①～献立の確認・物品準備～				
2	調理支援演習①～調理(一般食)・盛り付け～				
3	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
4	調理支援演習②～献立の確認・物品準備～				
5	調理支援演習②～調理(嚥下食)・盛り付け～				
6	調理支援演習②～片づけ～				
7	調理支援演習③～献立の確認・物品準備～				
8	調理支援演習③～調理(応用)・盛り付け～				
9	調理支援演習③～片づけ～				

**講義方法**

調理実習室を使用しての実技演習

**講義で使用する機器・教材**

iPad、献立、調理に必要な器具

**履修上の注意事項**

- ・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・調理実習室では食材を扱うため、清潔に努める。身だしなみを整え実習に臨むこと。
- ・調理実習室では刃物等を使用するため、細心の注意をはらうこと。
- ・レポート等の提出物の提出期限に注意すること。

**成績評価方法**

レポート：75% + 提出物（3回目レシピ等）25% = 100%

※後に10%換算し、生活支援技術Ⅲの総合評価とする。

生活支援技術Ⅲの総合評価は 調理10% + 形態別①40% + 形態別②20% + 生活20% + 被服10% = 100%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ 第2版』

**予習復習のアドバイス**

- ・事前にテキストを読んでおく。
- ・配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026(令和8)年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ（家庭生活）	講義曜日	時間割参照	講義回数	5
		単位時間数	10	単位数	1
講師名	小巖 貴美子	実務経験	介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	家庭生活の営みを理解した上で、利用者の個別性に対応できる技術・能力を身につける。				
	<b>到達目標</b>				
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養や食材管理について理解し、適切に支援することができる。</li> <li>・ 家庭生活という大枠から、経営を中心に介護福祉職としての役割を理解し説明、対応することができる。</li> </ul>			
回数	<b>講義内容</b>				
1	家庭生活の理解				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	生活設計の考え方				
4	消費者保護に関する理解				
5	これまでの振り返り／試験				

**講義方法**

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。

**講義で使用する機器・教材**

iPad必須

**履修上の注意事項**

- ・ テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・ 講義終了後のコメントカードは評価の参考となるため、必ず提出すること。

**成績評価方法**

筆記試験100%

※後に20%換算し、生活支援技術Ⅲの総合評価とする。

生活支援技術Ⅲの総合評価は 調理10% + 形態別①40% + 形態別②20% + 生活20% + 被服10% = 100%

**教科書・参考書**

生活支援技術Ⅰ（中央法規出版）

**予習復習のアドバイス**

- ・ 事前にテキストを読んでおく。
- ・ 配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	後期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	生活支援技術Ⅲ（被服）	講義曜日	時間割参照	講義回数	8
		単位時間数	16	単位数	2
講師名	相澤 美智子	実務経験	服飾講師として30年以上		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要介護者の行う裁縫等の行為に対する支援ができるようになる。</li> <li>・ 在宅、介護施設等の要介護者の衣服の管理及び補修に関わる知識、技術を習得する。</li> </ul>				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裁縫道具について理解し適切な使い方ができるようになる。</li> <li>・ 裁縫技術（縫い方）について理解し、場面に応じて適用できるようになる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 裁縫道具について…名称と用途の説明及び使用物品の準備。</li> <li>・ 基礎縫い準備…1、布の扱い方 2、標の付け方 3、待ち針の持ち方 4、待ち針の打ち方</li> </ul>				
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎技法…1、縫い始めと終わりの方法 ①玉結び ②玉止め ③返し縫い2種</li> <li>2、縫い方各種 ①並縫い ②半返し縫い ③全返し縫い</li> <li>3、糸継ぎの仕方</li> </ul>				
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>4、躰のかけ方</li> <li>5、縫い代始末各種 ①千鳥掛け ②流しまつり ③コの字まつり ④裁ち目かがり</li> </ul>				
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>4、躰のかけ方</li> <li>5、縫い代始末各種 ①千鳥掛け ②流しまつり ③コの字まつり ④裁ち目かがり</li> </ul>				
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>6、ボタン及びスナップの付け方</li> </ul>				
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アイロンの扱い方…温度管理とアイロンのかけ方</li> </ul>				
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題製作</li> </ul>				
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 課題製作</li> </ul>				

**講義方法**

裁縫道具を用いた実技

**講義で使用する機器・教材**

- ・ 裁縫道具(縫い針長短1本・玉待針5本・針山・角ヘラ・懸張器・竹尺・鋏3種・アイロン及びアイロン台)
- ・ 基本縫い材料(生地〈晒木綿〉・太口木綿手縫い糸2色・穴糸・スナップ・釦(ボタン)・糸通し)
- ・ 課題作成材料(生地〈厚地木綿〉・接着芯・木綿手縫い糸)

**履修上の注意事項**

遅れが生じるため、欠席・遅刻をしないことが望ましい。

**成績評価方法**

1. 提出物 70点(①基礎縫い、②課題作品)、2. 授業態度20点、3. 出席状況10点  
生活支援技術Ⅲの総合評価は 形態別60% + 家事・調理・家庭生活30% + 被服10% = 100%

**教科書・参考書**

「裁縫技術の基礎技法」プリント配付

**予習復習のアドバイス**

作品作りでは、これまでの技術を活用するため、復習しておくとい。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得できる。				
	<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護過程の意義・目的を理解できる。</li> <li>・ICFの考え方を活用した情報収集の方法を理解できる。</li> <li>・アセスメントは諸知識を統合することをの必要性を理解できる。</li> <li>・ケアプランと個別援助計画の関係性を理解できる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション（シラバス説明、授業の進め方、成績等について）／介護過程を展開するうえでの基本視点				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護過程のイメージをつかもう【演習】クラスメイトに旅行先の提案をしよう（発表）				
4	ワークブック「考える介護」のイメージ				
5	ワークブック「なぜ「考える介護」を展開するのか」				
6	ワークブック「状況を観察する1」				
7	ワークブック「状況を観察する2」①				
8	ワークブック「状況を観察する2」②				
9	介護過程の意義と目的				
10	介護過程の全体像				
11	介護過程の展開の理解				
12	介護過程における事例検討・事例研究の必要性				
13	介護過程の展開（全体）				
14	アセスメント（情報収集）				
15	アセスメント（情報収集）ニーズ				

16	アセスメント（情報収集）インタビュー
17	アセスメント（情報収集）信頼関係構築
18	アセスメント（情報収集）ICF
19	介護過程用紙No.1～4（情報収集）の書き方
20	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）3つの視点
21	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）
22	アセスメント（解釈・関連付け・統合化）
23	介護過程用紙No.5（ICF）No.6（生活課題）の書き方
24	事例の展開（No.1～4作成）
25	事例の展開（No.1～4作成）
26	事例の展開（No.5作成）
27	事例の展開（No.6作成）
28	事例の展開グループワーク
29	事例の展開グループワーク（発表）
30	期末試験

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

- ・資料を整理できるファイルを準備すること。
- ・資料はファイリングし自己管理すること。
- ・介護実習に直接的に関係する科目のため、欠席はしないこと。
- ・疑問・質問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

課題の提出物20%、筆記試験70%、授業態度10%

※授業態度とは、授業を主体的に受講（居眠りなし）、演習に積極的に参加、資料忘れ・紛失なしで判断

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版』

『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護過程Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	原田 由美子	実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得できる。				
	<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護計画における介護目標の設定方法を理解できる。</li> <li>・実施の記録、評価の内容と方法を理解できる。</li> <li>・チームアプローチにおける介護福祉士の役割と重要性を理解できる。</li> <li>・個別の事例を通じて、利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開を理解できる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	介護実習Ⅰ.2の介護過程用紙No.1～4（情報収集）を振り返り				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護実習Ⅰ.2の介護過程用紙No.6（生活課題）を作成				
4	介護実習Ⅰ.2の振り返り（発表）				
5	ワークブック「尊厳を守る介護過程」				
6	ワークブック「「価値」の問題と介護過程」				
7	ワークブック「利用者主体の介護過程」				
8	ワークブック「自立支援に向けた介護過程」				
9	「介護過程」展開の実際 事例1				
10	「介護過程」展開の実際 事例2				
11	「介護過程」展開の実際 事例3				
12	「介護過程」展開の実際 事例4				
13	介護過程とケアマネジメント				
14	介護計画の立案				
15	介護過程用紙No.7（介護計画）の書き方				

16	介護実習Ⅰ.2の介護過程用紙No.7（介護計画）を作成
17	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
18	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
19	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
20	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
21	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
22	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
23	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
24	介護実習Ⅱ.1事例研究資料作成
25	介護の実施
26	介護過程用紙No.7（実施）の書き方
27	評価
28	介護過程用紙No.7（評価）の書き方
29	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例1
30	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例2
31	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例3
32	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例4
33	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例5
34	事例で考える利用者の生活と介護過程の展開 事例6
35	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
36	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
37	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
38	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
39	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
40	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成

41	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
42	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
43	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
44	介護実習Ⅱ.2事例研究資料作成
45	期末試験
<b>講義方法</b>	
講義、演習	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
iPad	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資料はファイリングし自己管理すること。</li> <li>・ 介護実習に直接的に関係する科目のため、欠席はしないこと。</li> <li>・ 疑問・質問はその都度受け付けます。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>課題の提出物20%、筆記試験70%、授業態度10%</p> <p>※授業態度とは、授業を主体的に受講（居眠りなし）、演習に積極的に参加、資料忘れ・紛失なしで判断</p>	
<b>教科書・参考書</b>	
<p>『最新 介護福祉士養成講座 9 介護過程 第2版』</p> <p>『アクティブラーニングで学ぶ介護過程ワークブック』</p>	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護総合演習Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	45
		単位時間数	90	単位数	3
講師名	原田 由美子	実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことができる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習に関する基礎知識を得ることができる。</li> <li>・介護実習の振り返りを行うことができる。</li> <li>・介護実践の研究に関する知識を得ることができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション／介護実習全体像の理解／介護実習Ⅰ.1（早期見学型実習）とは				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	実習施設の理解～施設を調べて資料をまとめる～				
4	実習施設の理解～施設を調べて資料をまとめる～				
5	実習施設の理解 発表				
6	介護実習Ⅰ.1 個人票作成				
7	介護実習Ⅰ.1 自己課題作成				
8	介護実習Ⅰ.1 実習目標作成				
9	介護実習Ⅰ.1 実習目標作成				
10	介護実習Ⅰ.1 実習前準備				
11	実習生としてのマナーと心得(マイナビ)				
12	介護実習Ⅰ.1 学内オリエンテーション				
13	介護実習Ⅰ.1後 お礼状作成				
14	介護実習Ⅰ.1後 総合反省作成				
15	介護実習Ⅰ.1後 実習報告書作成				

16	介護実習Ⅰ.1振り返り(介護実習Ⅰ.1で出会ったご利用者様についてまとめよう(似顔絵))
17	介護実習Ⅰ.1振り返り(介護実習Ⅰ.1で出会ったご利用者様についてまとめよう(似顔絵)) 全体発表
18	介護実習Ⅱ.1実習報告会 聴講
19	介護実習Ⅱ.1実習報告会 聴講
20	介護実習Ⅰ.2(生活支援体験型実習)とは/介護過程の展開と生活支援技術の目標
21	介護実習Ⅰ.2 個人票作成
22	介護実習Ⅰ.2 自己課題作成
23	介護実習Ⅰ.2 実習目標作成
24	介護実習Ⅰ.2 実習計画作成
25	介護実習Ⅰ.2 アポイント・事前学習について
26	介護実習Ⅱ.2実習報告会 聴講
27	介護実習Ⅱ.2実習報告会 聴講
28	実習記録の書き方(マイナビ)
29	介護実習Ⅰ.2 介護過程用紙・総合反省の書き方
30	介護実習Ⅰ.2 日誌の書き方・CF進行方法
31	介護実習Ⅰ.2 学内オリエンテーション
32	介護実習Ⅰ.2 学内オリエンテーション
33	帰校日1(情報収集・記録確認)
34	帰校日1(情報収集・記録確認)
35	帰校日2(情報収集・CF資料準備)
36	帰校日2(情報収集・CF資料準備)
37	介護実習Ⅰ.2後 お礼状作成
38	介護実習Ⅰ.2後 お礼状作成
39	介護実習Ⅰ.2後 実習報告書作成

40	介護実習Ⅰ.2実習報告会 資料作成
41	介護実習Ⅰ.2実習報告会 資料作成
42	介護実習Ⅰ.2実習報告会 資料作成
43	介護実習Ⅰ.2実習報告会 資料作成
44	介護実習Ⅰ.2実習報告会
45	介護実習Ⅰ.2実習報告会
<b>講義方法</b>	
講義	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
i P a d（外付けのキーボードの購入を推奨）	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料はファイリングし自己管理すること。</li> <li>・介護実習に直接的に関係する科目のため、欠席はしないこと。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
提出物70%、実習報告会の結果20%	
※提出物は、未提出、期限遅れ、内容不足は減点とする。	
※実習報告会の結果は、クラス順位（1位：20点、2位：17点、3位：14点、4位以下：10点）	
<b>教科書・参考書</b>	
『最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版』	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護総合演習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護福祉士として介護老人保健施設に9年間勤務		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養うことができる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護実習に関する基礎知識を得ることができる。</li> <li>・介護実習の振り返りを行うことができる。</li> <li>・介護実践の研究に関する知識を得ることができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	介護実習Ⅱ.1 個人票作成				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	介護実習Ⅱ.1 実習目標・計画作成				
4	介護実習Ⅱ.1 学内オリエンテーション				
5	帰校日1（課題抽出・CF資料準備）				
6	帰校日1（課題抽出・CF資料準備）				
7	帰校日2（介護計画・CF資料準備）				
8	帰校日2（介護計画・CF資料準備）				
9	介護実習Ⅱ.1後 お礼状作成				
10	介護実習Ⅱ.1後 実習報告書作成				
11	介護実習Ⅱ.1実習報告会 資料作成				
12	介護実習Ⅱ.1実習報告会 資料作成				
13	介護実習Ⅱ.1実習報告会				
14	介護実習Ⅱ.1実習報告会				
15	介護実習Ⅱ.2 個人票作成				

16	介護実習Ⅱ.2 自己課題作成
17	介護実習Ⅱ.2 実習目標・計画作成
18	介護実習Ⅱ.2 学内オリエンテーション
19	帰校日1 (介護計画・CF資料準備)
20	帰校日1 (介護計画・CF資料準備)
21	帰校日2 (実施評価・CF資料準備)
22	帰校日2 (実施評価・CF資料準備)
23	介護実習Ⅱ.2後 お礼状作成
24	介護実習Ⅱ.2後 実習報告書作成
25	介護実習Ⅱ.2実習報告会 資料作成
26	介護実習Ⅱ.2実習報告会 資料作成
27	介護実習Ⅱ.2実習報告会
28	介護実習Ⅱ.2実習報告会
29	介護実習Ⅰ.2実習報告会 聴講
30	介護実習Ⅰ.2実習報告会 聴講

**講義方法**

講義

**講義で使用する機器・教材**

i P a d

**履修上の注意事項**

- ・資料はファイリングし自己管理すること。
- ・介護実習に直接的に関係する科目のため、欠席はしないこと。

**成績評価方法**

提出物70%、実習報告会の結果20%

※提出物は、未提出、期限遅れ、内容不足は減点とする。

※実習報告会の結果は、クラス順位（1位：20点、2位：17点、3位：14点、4位以下：10点）

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護実習Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	17日
		単位時間数	136	単位数	3
講師名	原田由美子、小巖貴美子、齋藤裕子	実務経験	原田(介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務) 小巖(介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務) 齋藤(医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり)		
講義目標	<b>一般目標・到達目標</b>				
	<p>介護実習Ⅰ.1</p> <p>① 1) 介護サービス利用者の理解と、利用者の状態に応じた介護実践の見学及び体験をする。 また、施設の業務内容の理解や法的位置づけおよび役割を理解する。</p> <p>② 1) 介護福祉士としての基本姿勢、態度を習得 2) 利用者・職員との関わりを通じてコミュニケーションを実践する。</p> <p>③ 1) 介護実習の意義目的を理解し、実習施設での実習方法を身につける。</p> <p>介護実習Ⅰ.2</p> <p>① 1) 利用者の支援に必要で適切な情報を収集し、アセスメントできる。 2) 適切に情報をまとめることができる。 3) 初歩的な介護技術お体験し、その方法を理解できる。</p> <p>② 1) 保健・医療・福祉の各分野の職場において、介護福祉士の役割と責任を理解し、チームケアの一員として自覚をもって適切な態度・行動がとれる。 2) 利用者との関わりにおいて、言語的・非言語的コミュニケーションを用いたコミュニケーションを図ることができる。</p> <p>③ 1) インフォームド・コンセントお踏まえた上で、利用者から必要で適切な情報を収集でき、適切にまとめる。 2) 日々の記録・報告ができる。 3) 変則勤務（早番・遅番）を経験し、利用者の継続的な生活の支援を理解できる。</p>				
<b>実習内容</b>					
<p>介護実習Ⅰ.1</p> <p>実施時期：6月</p> <p>実施時間：16時間（2日間）</p> <p>実施施設：デイサービスセンター、グループホーム、小規模多機能型施設 等</p> <p>介護実習Ⅰ.2</p> <p>実施時期：11月</p> <p>実施時間：120時間（15日間）</p> <p>実施施設：介護保険施設、障害者支援施設</p>					

## 実習参加要件・成績評価方法

### 【実習参加要件】

- 1.1 : 実習生として品行方正であること。  
1.2 : 品行方正であり、前期末試験対象科目の評定がすべて「C」以上であること。  
1.1及び1.2共通 : 実習前の身だしなみ指導で「要改善」と判定された場合、再指導を受け、改善が確認されるまで実習を開始することはできない。また、その間の実習延長は認めず、規定の時間数が不足した場合は単位を認めない。

### 前期末試験対象科目：

「生活支援技術Ⅰ」「コミュニケーション技術Ⅰ」「認知症の理解Ⅰ」「介護の基本Ⅰ」「人間の尊厳と自立」「人間関係とコミュニケーションⅠ」以上、6科目

※学生の身だしなみ指導基準は、担当教員が「実習にふさわしくない」、「他者や学生本人の安全が確保できない」などの観点から判断する。

具体的には、不潔感がある、髪色が派手、香水のにおいが強すぎる、過度なメイク、爪の長さやアクセサリーの着用など、清潔感や節度を欠く状態が該当する。

### 【成績評価方法】

指導者評価 : 介護実習到達目標に基づき、指導者が評価表に記入

教員評価 : 巡回担当教員が学生の到達度や各種資料を基に評価を行う。

総合評価 : 指導者評価、教員評価、実習報告会を総合し、点数化して最終評価

- ・ 介護実習の出席時間数が5分の4に満たない場合は、評定を受けることができない。
- ・ 実習評価が60点未満の場合は不合格となり、現学年留置となる。

### 【評価基準】

5：自発的に行動し、工夫も加えている、4：指導を受ければ一人で実施可能、3：指導を受けながら実施可能、2：相談や助言が必要、1：実施が困難で支援が必要

### 【実習の中断】

実習中、実習生として著しく不適切な行動や態度が見られた場合、または実習指導者や学校関係者が実習の継続が困難であると判断した場合は、実習を中断することがある。なお、実習を中断した場合の取り扱いについては、関係教員で協議の上決定し、決定するまでの間、学生は自宅待機とする。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	介護実習Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	46日
		単位時間数	315以上	単位数	7
講師名	原田由美子、小巖貴美子、齋藤裕子	実務経験	原田(介護福祉士として介護老人保健施設に9年勤務) 小巖(介護福祉士として介護老人福祉施設に20年間勤務) 齋藤(医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり)		
講義目標	<b>一般目標・到達目標</b>				
	<p>介護実習Ⅱ.1</p> <p>① 1) 個別的な生活支援技術を理解し、介護過程を展開（介護計画の立案）できる。 2) 利用者の生活全般を観察し、介護実践の根拠を理解する。</p> <p>② 1) 役割を明確化し、利用者との人間関係を維持し、関連職種と適切に連携できる。 2) 介護福祉士としての自己覚知に努める。</p> <p>③ 1) 利用者の行動を観察し、変化を捉えられ、効果判定ができる。 2) 他職種の役割を理解し、他の専門職と情報交換を行い、必要な情報を的確に得ることができる。 3) 変則勤務（夜間実習）を経験し、利用者の継続的な生活の支援を理解できる。</p> <p>介護実習Ⅱ.2</p> <p>① 1) 社会ニーズの多様化に対応したアセスメントを行っている。 2) 設定された目標の達成度を評価でき、適切な介護計画を立案し、介護の実施継続ができる。</p> <p>② 1) 実践の場で、多職種と協働できる関係を作ることができる。 2) 対象者やその家族とも良好な人間関係お保っている。</p> <p>③ 1) インフォームドコンセント・安全管理（インシデント・感染症予防）を考慮したうえで、対象者の心身及び生活を改善する。（安全性・快適さ・自立を考慮した介護の実践） 2) 情報管理（カルテ管理・個人情報管理・守秘義務）上、適切に記録・報告を行える。</p>				
<b>実習内容</b>					
<p>介護実習Ⅱ.1</p> <p>実施時期：6月～7月</p> <p>実施時間：160時間以上（20日間以上）</p> <p>実施施設：介護保険施設、障害者支援施設</p> <p>介護実習Ⅱ.2</p> <p>実施時期：10月</p> <p>実施時間：160時間以上（20日間以上）</p> <p>実施施設：介護保険施設、障害者支援施設</p>					

## 成績評価方法

### 実習参加要件・成績評価方法

#### 【実習参加要件】

Ⅱ.1 : 実習生として品行方正であること。

Ⅱ.2 : 実習生として品行方正であること。

Ⅱ.1及びⅡ.2共通 : 実習前の身だしなみ指導で「要改善」と判定された場合、再指導を受け、改善が確認されるまで実習を開始することはできない。また、その間の実習延長は認めず、規定の時間数が不足した場合は単位を認めない。

※学生の身だしなみ指導基準は、担当教員が「実習にふさわしくない」、「他者や学生本人の安全が確保できない」などの観点から判断する。具体的には、不潔感がある、髪色が派手、香水のにおいが強すぎる、過度なメイク、爪の長さやアクセサリーの着用など、清潔感や節度を欠く状態が該当する。

#### 【成績評価方法】

指導者評価 : 介護実習到達目標に基づき、指導者が評価表に記入。

教員評価 : 巡回担当教員が学生の到達度や各種資料を基に評価を行う。

総合評価 : 指導者評価、教員評価、実習報告会を総合し、点数化して最終評価

- ・ 介護実習の出席時間数が5分の4に満たない場合は、評価を受けることができない。
- ・ 実習評価が60点未満の場合は不合格となり、現学年留置となる。

#### 【評価基準】

5：自発的に行動し、工夫も加えている、4：指導を受ければ一人で実施可能、3：指導を受けながら実施可能、2：相談や助言が必要、1：実施が困難で支援が必要

#### 【実習の中断】

実習中、実習生として著しく不適切な行動や態度が見られた場合、または実習指導者や学校関係者が実習の継続が困難であると判断した場合は、実習を中断することがある。なお、実習を中断した場合の取り扱いについては、関係教員で協議の上決定し、決定するまでの間、学生は自宅待機とする。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達と老化の理解	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	20	単位数	4
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	・老化に伴う心身機能の変化が日常生活に及ぼす影響や、高齢者の社会参加について学習し、高齢者に対する偏った見方をせずに、個別性を踏まえた支援について考えるための基礎的な知識を習得できる。				
	・ライフサイクル各期における主な疾病について学習し、健康の維持・増進を含め、観察点や支援の際の留意事項を考察することができる。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(骨格・筋～脳神経系)が理解できる				
2	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(脳神経～皮膚・感覚器系)が理解できる				
3	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
4	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(循環器～呼吸器系)が理解できる				
5	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(呼吸器～消化器系)が理解できる				
6	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(消化器～泌尿器系)が理解できる				
7	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(泌尿器～内分泌・代謝系)が理解できる				
8	第5章 第3節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(内分泌・代謝～悪性新生物)が理解できる				
9	第5章 第4節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(悪性新生物～精神疾患)が理解できる				
10	第5章 第5節 高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点(精神疾患他)・保健医療職との連携が理解できる				

**講義方法**

- ・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)
- ・確認テストあり。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター(PC連動)

**履修上の注意事項**

- ・こころとからだのしくみ、障害の理解、認知症の理解、医療的ケアと関連する科目であるため、欠席しないことが望ましい。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%(山野60%・齋藤40%) 例】山野( $75 \times 0.6 = 45$ 点)+齋藤( $80 \times 0.4 = 32$ 点)=77点(B評価)
- ・確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになることを心に留めておく必要がある。

**教科書・参考書**

- ・介護福祉士養成講座12発達と老化の理解第2版(中央法規出版)、11こころとからだのしくみ第2版(中央法規出版)
- ・全部わかる人体解剖図(成美堂出版)

**予習復習のアドバイス**

- ・必ず予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさないこと。
- ・第5章第3節で学ぶ疾患は、国家試験の出題傾向が高い。解剖、病態生理の確実な理解が求められる。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	発達と老化の理解	講義曜日	時間割参照	講義回数	20
		単位時間数	40	単位数	4
講師名	山野 英伯	実務経験	医療現場で看護師として6年以上 医療・福祉講師として25年以上		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の成長と発達の観点から人の一生について理解する。</li> <li>・ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達を踏まえ、各段階に応じた生活支援のあり方を学ぶ。また、発達の観点から老化を理解し、老化に伴う身体的、心理的社会的な変化や疾病と生活への影響など、生活を支援するための基礎的な知識を学ぶ。</li> </ul>				
講義目標	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクル各期における身体的、心理的、社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾患について理解できるようにする。</li> <li>・老化に伴う身体的、心理的、社会的な変化や高齢者に多くみられる疾患と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活の支援が理解できるようにする。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	1章・1節 成長と発達の考え方				
3	1章・2節 成長と発達の原則・法則				
4	1章・3節 成長・発達に影響する要因				
5	2章・1節 発達理論				
6	2章・2節 発達段階と発達課題				
7	2章・3節 身体的機能の成長と発達				
8	2章・4節 心理的・社会的機能の発達				
9	2章・5節 社会的機能の発達				
10	小テスト ・ 1～9回までの振り返り				
11	3章・1節 老年期の発達課題				
12	3章・2節 老年期の発達課題				

13	3章・3節 老年期の発達課題
14	3章・4節 老年期をめぐる今日的課題
15	4章・1節 老化に伴う身体的変化と生活への影響
16	4章・2節 老化に伴う心理的な変化と生活への影響
17	4章・3節 老化に伴う社会的な変化と生活への影響
18	5章・1節 健康長寿にむけての健康
19	5章・2節 高齢者の症状・疾患の特徴
20	小テスト ・ 11～19回までの振り返り
<b>講義方法</b>	
・テキストを基にした講義、グループワークおよび演習	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
iPad必須	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。</li> <li>・欠席すると遅れが生じるため、欠席には注意する。</li> <li>・各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
受講態度、 小テスト2回80%、 レポート 山野60% + 齋藤40% = 100%で評価とする。	
<b>教科書・参考書</b>	
発達と老化の理解（中央法規出版） 人体解剖図、脳の事典	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
「こころとからだのしくみ」を関連付けた学習を行うこと。また、日常的にテキストおよび授業資料にて復習、次回授業の予習を行うこと。 実践的な発達段階に応じた介護を行ううえで、日々情報を自ら得る習慣と関心を持つ事を勧める。 また、教員在校時に質問等を積極的に行う事が必要。	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	認知症の理解Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症の原因となる代表的な疾患と、中核症状および特徴的な行動心理症状を学び、生活への影響と関連させて説明することができる。</li> <li>・症状から派生する生活への影響を利用者側に立ってアセスメントし、介護を実践するための基礎的能力を身につけることができる。</li> <li>・認知症への効果的な非薬物療法の種類と概要を説明することができる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	第1章第1節 認知症の基礎的理解/認知症のある高齢者の現状と今後について理解することができる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	第1章第3節 脳のしくみについて理解することができる				
4	第1章第3節 脳のしくみについて理解することができる/確認テスト				
5	第1章第4節 認知症の人の心理について理解することができる				
6	第2章第1節 認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解について理解することができる				
7	第2章第1節 認知症の症状・診断・治療・予防 中核症状の理解について理解することができる/確認テスト				
8	第2章第2節 生活障害の理解について理解することができる				
9	第2章第3節 BPSDの理解について理解することができる/確認テスト				
10	第2章第4節 認知症の診断と重症度について理解することができる				
11	第2章第5節 認知症の原因疾患と症状・生活障害について理解することができる				
12	第2章第5節 認知症の原因疾患と症状・生活障害について理解することができる/確認テスト				
13	第2章第6節 認知症の治療薬について理解することができる				
14	第2章第7節 認知症の予防について理解することができる				
15	第2章第7節 認知症の予防について理解することができる/確認テスト				

**講義方法**

- ・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)
- ・確認テストあり。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター(PC連動)

**履修上の注意事項**

- ・こころとからだのしくみ、障害の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。
- ・欠席しないことが望ましく、質問がある場合には、いつでも自主的に質問にくること。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%
- ・なお、確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになる。
- ・認知症に関するDVD等を鑑賞しレポートを提出する。基本的なルールを守ることができなければ、期末試験の点数から減点とする。(別紙参照)

**教科書・参考書**

介護福祉士養成講座13 認知症の理解 第3版(中央法規出版)  
脳の事典、人体解剖図(成美堂出版)

**予習復習のアドバイス**

必ず予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさない。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	認知の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	原田 由美子	実務経験	介護老人保健施設に介護福祉士として9年勤務		
講義目標	<b>一般目標</b> 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 症状から派生する生活への影響を利用者側に立ってアセスメントし、介護を支援するための基礎的能力を身に付けることができる。</li> <li>・ 認知症への効果的な非薬物療法の種類と概要を説明できる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	取り巻く状況／認知症の人のおかれてきた状況がわかる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	当事者から／認知症の人が発信することの大切さがわかる				
4	本人座談会／本人座談会（動画）を通し認知症の人を理解する				
5	パーソン・センタード・ケア／パーソン・センタード・ケアとは何かがわかる				
6	アセスメントツール／認知症の人のためのアセスメントツールを使うことができる				
7	コミュニケーション／認知症の人の特徴からコミュニケーションの方法がわかる				
8	認知症ケア①／認知症の人とかわる際のポイントがわかる				
9	認知症ケア②／認知症の人とかわる際のポイントがわかる				
10	アプローチ／認知症ケアのアプローチの方法がわかる				
11	終末期ケア／成認知症の人の終末期に向けたかわり方がわかる				
12	環境づくり／認知症の人の生活環境の大切さがわかる				
13	地域包括ケア／認知症の人が安心して地域で生活できるしくみがわかる				
14	認知症カフェ／認知症カフェを見学し、その機能と役割がわかる				
15	認知症カフェ／認知症カフェを見学し、その機能と役割がわかる				

**講義方法**

講義、演習

**講義で使用する機器・教材**

iPad

**履修上の注意事項**

主体的に講義を受けること。

質問や疑問はその都度受け付けます。

**成績評価方法**

期末試験90%、授業態度10%

**教科書・参考書**

『最新 介護福祉士養成講座 13 認知症の理解 第3版』

『ぜんぶわかる 認知症の辞典』

**予習復習のアドバイス**

事前に教科書を読み、自分で説明できない、またはあやふやな言葉の意味を調べておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解Ⅰ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	一般目標				
	障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や障害特性に応じた制度の基礎的知識を理解できる。</li> <li>・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できるようになる。</li> </ul>				
回数	講義内容				
1	第1章第1節 障害の概念と障害福祉の基本理念(障害の概念)を理解することができる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	第1章第3節 障害の概念と障害福祉の基本理念(障害者福祉に関連する制度)を理解することができる				
4	第1章第4節 障害の概念と障害福祉の基本理念(障害者福祉制度と介護保険制度)を理解することができる				
5	第2章第1節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(障害のある人の心理)を理解することができる				
6	第2章第2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(肢体不自由)を理解することができる				
7	第2章第2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(肢体不自由)を理解することができる				
8	第2章第3節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(視覚障害)を理解することができる				
9	第2章第4節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(聴覚・言語障害)を理解することができる				
10	第2章第5節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(重複障害)を理解することができる				
11	第2章第6節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(内部障害)を理解することができる				
12	第2章第6節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(内部障害)を理解することができる				
13	第2章第6節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(内部障害)を理解することができる				
14	第2章第7節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅰ(重症心身障害)を理解することができる				
15	まとめ、DVD鑑賞、確認テスト				

**講義方法**

- ・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)
- ・確認テストあり。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター(PC連動)

**履修上の注意事項**

- ・こころとからだのしくみ、認知症の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。
- ・欠席しないことが望ましく、質問がある場合には、いつでも自主的に質問にくること。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%
- ・障害を取り上げたDVD等を鑑賞しレポートを提出する。基本的なルールを守らなければ、期末試験の点数からレポート点を減点する。(別紙参照)
- ・なお、確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになる。

**教科書・参考書**

介護福祉士養成講座14 障害の理解 第3版(中央法規出版)

**予習復習のアドバイス**

- ・必ず予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさない。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	障害の理解Ⅱ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	「障害の理解Ⅰ」の知識を振り返るとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみならず、家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOLを高める支援につなぐことができる。</li> <li>・障害のある人の生活を地域で支えるためのサポート体制や、多職種連携・協働による支援について理解できる。</li> <li>・障害のある人を支える家族の課題を理解し、家族の障害受容段階や介護力に応じた支援について学ぶ。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	第3章第1節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 知的障害を理解することができる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	第3章第2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 精神障害を理解することができる				
4	第3章第2節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 精神障害を理解することができる/確認テスト				
5	第3章第3節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害を理解することができる				
6	第3章第3節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 高次脳機能障害を理解することができる/確認テスト				
7	第3章第4節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 発達障害を理解することができる				
8	第3章第4節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 発達障害を理解することができる/確認テスト				
9	第3章第5節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 難病を理解することができる				
10	第3章第5節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 難病を理解することができる/確認テスト				
11	第3章第5節 障害別の基礎的理解と特性に応じた支援Ⅱ 難病を理解することができる/DVD鑑賞				
12	第4章第1節 連携と協働 地域のサポート体制を理解することができる				
13	第4章第2節 連携と協働 チームアプローチを理解することができる				
14	第5章第1節 家族への支援 家族への支援とはを理解することができる				
15	第5章第2節 家族への支援 家族の介護力の評価と介護負担の軽減を理解することができる/確認テスト				

**講義方法**

- ・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)
- ・確認テストあり。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター(PC連動)

**履修上の注意事項**

- ・障害の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。
- ・欠席しないことが望ましく、質問がある場合には、いつでも、自主的に質問にすること。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%
- ・なお、確認テストは評価点に含まれないが、ミニテストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになる。
- ・障害別のDVD等を鑑賞し、レポートを提出する。基本的なルールが守られなければ、期末試験の点数からレポート点を減点する。(別紙参照)

**教科書・参考書**

介護福祉士養成講座14障害の理解 第3版(中央法規出版)  
人体解剖図(成美堂出版)

**予習復習のアドバイス**

必ず予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさない。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	こころとからだのしくみⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数	35/45
		単位時間数	70	単位数	3
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	単に医学的知識を養うのではなく「介護を必要とする人の生活を支援する」という観点・視点を持ちながら、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造や機能を理解することができる。				
	<b>到達目標</b>				
	①介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人間の心理、人体の構造と機能を理解する。 ②対象を理解する上で大切な運動学、生理学、心理学の基礎をもとに加齢や様々な疾患でもたらされる生活障害はどのようなメカニズムで生じるのかについて学習する。 ③基礎的な知識を踏まえ、多様な対象理解のために、観察力、思考力、想像力を深めていく。				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	第2章1 からだのしくみを理解することができる（身体各部の名称）				
3	第2章1 からだのしくみを理解することができる（内臓の名称）				
4	第2章1 からだのしくみを理解することができる（骨格・骨格筋の名称）/確認テスト				
5	第2章1 からだのしくみを理解することができる（脳神経・中枢神経系）				
6	第2章1 からだのしくみを理解することができる（脳神経・中枢神経系）				
7	第2章1 からだのしくみを理解することができる（脳神経・末梢神経系）/確認テスト				
8	第2章1 からだのしくみを理解することができる（感覚器・視覚器）				
9	第2章1 からだのしくみを理解することができる（感覚器・平衡聴覚器）				
10	第2章1 からだのしくみを理解することができる（感覚器・嗅覚器、味覚器、皮膚）/確認テスト				
11	第2章1 からだのしくみを理解することができる（呼吸器）				
12	第2章1 からだのしくみを理解することができる（呼吸器）				
13	第2章1 からだのしくみを理解することができる（呼吸器）/確認テスト				
14	第2章1 からだのしくみを理解することができる（循環器）				
15	第2章1 からだのしくみを理解することができる（循環器）				
16	第2章1 からだのしくみを理解することができる（循環器）/確認テスト				
17	第2章1 からだのしくみを理解することができる（消化器）				

18	第2章1 からだのしくみを理解することができる (消化器)
19	第2章1 からだのしくみを理解することができる (消化器) /確認テスト
20	第2章1 からだのしくみを理解することができる (泌尿器)
21	第2章1 からだのしくみを理解することができる (泌尿器)
22	第2章1 からだのしくみを理解することができる (泌尿器) /確認テスト
23	第2章1 からだのしくみを理解することができる (骨・筋肉～神経系)
24	第2章1 からだのしくみを理解することができる (骨・筋肉～神経系)
25	第2章1 からだのしくみを理解することができる (骨・筋肉～神経系) /確認テスト
26	第2章1 からだのしくみを理解することができる (生殖器)
27	第2章1 からだのしくみを理解することができる (内分泌) /確認テスト
28	第2章1 からだのしくみを理解することができる (血液・体液・リンパ液)
29	第2章1 からだのしくみを理解することができる (血液・体液・リンパ液)
30	第2章1 からだのしくみを理解することができる (血液・体液・リンパ液) /確認テスト
31	第2章1 生命を維持するしくみについて理解することができる (ホメオスタシス・免疫)
32	第2章2 生命を維持するしくみについて理解することができる (薬の知識) /確認テスト
33	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみを理解することができる
34	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみを理解することができる
35	第4章 身じたくに関連したところとからだのしくみを理解することができる/確認テスト
<b>講義方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)</li> <li>・各項目において、課題作成・提出、確認テストの実施あり。</li> </ul>	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
プロジェクター(PC連動)	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・障害の理解、認知症の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと関連する科目であることから、欠席しないことが望ましい。</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験100%(河村20%・齋藤80%) (例)河村(75×0.2=15点)+齋藤(80×0.8=64点)=79点(B評価)</li> <li>・期末試験100%であるが、課題提出等において基本的なルールを守れなかった場合は、期末試験結果より減点となる。</li> <li>・なお、確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになることを心に留めておく必要がある。</li> </ul>	
<b>教科書・参考書</b>	
介護福祉士養成講座11 ころとからだのしくみ 第2版(中央法規出版) 全部わかる人体解剖図(成美堂出版)	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しいため自己学習を欠かさないこと。</li> </ul>	

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	通年	学年	1
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	こころとからだのしくみⅠ	講義曜日	時間割参照	講義回数	10
		単位時間数	20	単位数	6
講師名	河村 真人	実務経験	医療現場で看護師として5年以上 医療・福祉講師として15年以上		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために、介護技術の根拠となる人間の感覚や基礎的な心理的事項、人体の形態や機能の基本的事項について理解できる。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・からだのしくみや動きを学び、機能低下した際日常生活に及ぼす影響をイメージし、説明できるようになる。</li> <li>・脳構造からみた心理およびこころのしくみを学習し、介護実践に応用できる能力を養う。また、介護福祉士として心理上の自己管理を行えるようになる。</li> <li>・終末期のとらえ方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を学ぶ。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	オリエンテーション.シラバス説明				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	第1章 人間の欲求の基礎的理解				
4	自己概念と尊厳				
5	こころのしくみの基礎				
6	第3章 移動に関連したこころとからだのしくみ				
7	移動に関連したこころとからだのしくみ				
8	機能低下・障害が移動に及ぼす影響				
9	まとめ				
10	まとめ				

**講義方法**

テキストおよび必要に応じた補助教材を使用した講義を行う。  
実習室を利用して実技演習を行う。

**講義で使用する機器・教材**

i p a d 必須。演習用人体モデル

**履修上の注意事項**

- ・ テキスト、ノート類および資料を整理できる環境を整えて講義に臨むこと。
- ・ 欠席すると遅れが生じるため、欠席には注意する。
- ・ 各項目毎に準備物が異なるため、忘れ物には注意すること。
- ・ 提出物の提出期限に注意すること。

**成績評価方法**

期末試験100%（齋藤80%：河村20%）

**教科書・参考書**

こころとからだのしくみ（中央法規出版）  
人体解剖図、脳の事典

**予習復習のアドバイス**

- ・ 事前にテキストを読んでおく。
- ・ 配布資料はファイル等に綴じ、授業前に復習しておく。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	前期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	こころとからだのしくみⅡ	講義曜日	時間割参照	講義回数	15
		単位時間数	30	単位数	2
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	「こころとからだのしくみⅠ」の知識をもとに、利用者の日常生活（身支度、食事、排泄等）を支える介護実践との関係について、また、終末期の心身の変化が及ぼす影響や生活支援に必要な基礎知識を学ぶ。				
	<b>到達目標</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活支援の場面に応じたこころとからだのしくみ、及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できる。</li> <li>・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要な知識を理解することができる。</li> </ul>					
回数	<b>講義内容</b>				
1	第5章第1節 食事に関連したこころとからだのしくみ(食事のしくみ)を理解することができる				
2	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
3	第5章第3節 食事に関連したこころとからだのしくみ(変化の気づきと対応)を理解することができる/確認テスト				
4	第6章第1節 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)を理解することができる				
5	第6章第2節 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(心身機能低下が入浴等に及ぼす影響)を理解することができる				
6	第6章第3節 入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(変化の気づきと対応)を理解することができる/確認テスト				
7	第7章第1節 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排泄のしくみ)を理解することができる				
8	第7章第2節 排泄に関連したこころとからだのしくみ(心身機能低下が排泄に及ぼす影響)を理解することができる				
9	第7章第3節 排泄に関連したこころとからだのしくみ(変化の気づきと対応)を理解することができる/確認テスト				
10	第8章第1節 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(休息・睡眠のしくみ)を理解することができる				
11	第8章第2節 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(心身機能低下が休息等に及ぼす影響)を理解することができる				
12	第8章第3節 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(変化に気付くためのポイント)/確認テスト				
13	第9章第1・2節 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ				
14	第9章第3・4節 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ				
15	DVD鑑賞、レポート提出/確認テスト				

**講義方法**

- ・教科書を中心に、スライド(パワーポイント)を用いて講義を行う。(板書、口頭説明あり)
- ・項目によっては、課題提出・確認テストあり。

**講義で使用する機器・教材**

プロジェクター(PC連動)

**履修上の注意事項**

- ・障害の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。
- ・欠席しないことが望ましい。質問がある場合には、いつでも、自主的に質問にくること。

**成績評価方法**

- ・期末試験100%
- ・確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになる。
- ・終末期に関するDVD等を鑑賞し、レポートを提出する。基本的なルールを守らなければ、期末試験の点数から減点とする。(別紙参照)

**教科書・参考書**

介護福祉士養成講座11 心とからだのしくみ 第2版(中央法規出版)  
人体解剖図(成美堂出版)

**予習復習のアドバイス**

- ・予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさない。

## 講義要項（シラバス）シート

年 度	2026（令和8）年度	時 期	前期	学 年	2
学 科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア	講義曜日	時間割参照	講義回数	30
		単位時間数	60	単位数	4
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	一般目標				
	医療職と連携のもと、医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。				
	到達目標				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」「医療的ケアを実施するための感染予防」「安全管理体制」等についての基礎的知識を理解できる。</li> <li>・喀痰吸引について、根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的知識、実施手順方法を理解できる。</li> <li>・経管栄養について、根拠に基づく手技が実施できるよう基礎的知識、実施手順方法を理解できる。</li> </ul>				
回数	講義内容				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	第1章第1節 医療的ケア実施の基礎（医療的ケア）を理解することができる				
3	第1章第1節 医療的ケア実施の基礎（医療的ケア）を理解することができる				
4	第1章第1節 医療的ケア実施の基礎（医療的ケア）を理解することができる				
5	第1章第1節 医療的ケア実施の基礎（医療的ケア）を理解することができる/確認テスト				
6	第1章第2節 医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活(救急蘇生)を理解することができる				
7	第1章第2節 医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活(救急蘇生)を理解することができる				
8	第1章第2節 医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活(救急蘇生実技試験)を理解することができる				
9	第1章第2節 医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活(救急蘇生実技試験)を理解することができる				
10	第1章第2節 医療的ケア実施の基礎 安全な療養生活(救急蘇生実技試験)を理解することができる				
11	第1章第3節 医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防(嘔吐物処理など)を理解することができる				
12	第1章第3節 医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防(嘔吐物処理など)を理解することができる				
13	第1章第3節 医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防(嘔吐物処理など実技試験)を理解することができる				
14	第1章第3節 医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防(嘔吐物処理など実技試験)を理解することができる				

15	第1章第3節 医療的ケア実施の基礎 清潔保持と感染予防(嘔吐物処理など実技試験)を理解することができる
16	第1章第4節 医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握(バイタルサイン測定)を理解することができる
17	第1章第4節 医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握(バイタルサイン測定)を理解することができる
18	第1章第4節 医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握(バイタルサイン測定実技試験)を理解することができる
19	第1章第4節 医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握(バイタルサイン測定実技試験)を理解することができる
20	第1章第4節 医療的ケア実施の基礎 健康状態の把握(バイタルサイン測定実技試験)を理解することができる
21	第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
22	第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
23	第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
24	第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
25	第2章 喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
26	第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
27	第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
28	第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
29	第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順)を理解することができる
30	第3章 経管栄養(基礎的知識・実施手順)を理解することができる

### 講義方法

- ・テキストおよび必要に応じた補助教材を使用する。
- ・実技試験あり。

### 講義で使用する機器・教材

- ・プロジェクター(PC連動)
- ・演習用人体モデル使用

### 履修上の注意事項

- ・障害の理解、発達と老化の理解、医療的ケアと大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。
- ・欠席しないことが望ましく、質問がある場合には、いつでも、自主的に質問にすること。
- ・実技ではユニフォームを着用。身だしなみチェックあり。(別紙参照)

### 成績評価方法

- ・期末試験70%、実技試験30%(救急蘇生、嘔吐物処理・スタンダードプリコーション、バイタルサイン測定)
- ・なお、確認テストは評価点に含まれないが、確認テストで点数が獲得できなければ期末試験結果は厳しいものになる。

### 教科書・参考書

介護福祉士養成講座15医療的ケア 第3版(中央法規出版)  
人体解剖図(成美堂出版)

### 予習復習のアドバイス

- ・予習・復習を行い、知識を確実なものにしなければ期末試験の合格は厳しい。自己学習を欠かさない。
- ・「命に関わる医療行為を学んでいる」という自覚を忘れず、授業や実技に臨むこと。

## 講義要項（シラバス）シート

年度	2026（令和8）年度	時期	後期	学年	2
学科	介護福祉科	講義時間	時間割参照		
科目名	医療的ケア（演習）	講義曜日	時間割参照	講義回数	23
		単位時間数	45	単位数	2
講師名	齋藤 裕子	実務経験	医療機関で看護師・保健師として10年以上の経験と、看護教員の経験あり		
講義目標	<b>一般目標</b>				
	医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識や技術を習得する。				
	<b>到達目標</b>				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全、適切に喀痰吸引が実施できる。</li> <li>・安全、適切に経管栄養が実施できる。</li> </ul>				
回数	<b>講義内容</b>				
1	人間の尊厳／尊厳について考えることができる				
2	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
3	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
4	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
5	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
6	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
7	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
8	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
9	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
10	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
11	第4章第1節 演習 喀痰吸引(口腔・鼻腔・気管内)のケア実施の手引き、実技試験				
12	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験				
13	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験				
14	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験				
15	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験				

16	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
17	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
18	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
19	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
20	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
21	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
22	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
23	第4章第2節 演習 経管栄養(経鼻・胃瘻)のケア実施の手引き、実技試験
<b>講義方法</b>	
<p>テキストおよび必要に応じた補助教材を使用する。</p> <p>演習、実技試験を実施する。</p>	
<b>講義で使用する機器・教材</b>	
<p>プロジェクター(PC連動)、教員制作ムービー</p> <p>演習用人体モデル</p>	
<b>履修上の注意事項</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・こころとからだのしくみ、障害の理解、発達と老化の理解と大きく関連する科目であるため、確実な理解が必要になる。</li> <li>・欠席しないことが望ましく、質問がある場合には、いつでも自主的に質問にくること。</li> <li>・ユニフォーム着用。身だしなみチェックあり。(別紙参照)</li> <li>・演習、実技試験は午前AG、午後BGに分けて行う。(別紙参照)</li> </ul>	
<b>成績評価方法</b>	
<p>各項目5回の演習、実技試験を行う。最終5回目で満点を獲得できなければ再試験となり、5回目以降1回不可ごとに10点ずつ減点となる。最終評価は5項目の総合点数とする。(詳細別紙参照)</p> <p>演習、実技試験時は、その都度【根拠】について確認していく。そのため、解剖学や病態生理を復習し、安全な手技を身に付けることを常に意識して臨むこと。命に直結する行為であることを忘れない。</p> <p>演習中の携帯電話の操作や飲食は禁止。周囲のことを考えて行動する。</p>	
<b>教科書・参考書</b>	
<p>介護福祉士養成講座15 医療的ケア 第3版(中央法規出版)</p> <p>人体解剖図(成美堂出版)</p>	
<b>予習復習のアドバイス</b>	
<p>予習・復習を行い、確実な手技を身に付ける。この試験に合格できなければ、国家試験に合格したとしても卒業はできない。</p>	